

教職課程センターだより

第3号

発行日 2009年10月30日

的確な情報を伝え、学び合い、情報発信を

教職課程センター長 磯部 作

先日は台風18号が愛知県を直撃し、強風による農業被害や、土砂崩れによる鉄道の運休、高潮による被害が発生した。本学でも7号館と8号館の間の屋根が飛ばされた。幸いにも休講の後の夜間から未明で人的被害はなかった。台風の予報精度も高まり、的確な情報を伝え、学び合っていけば被害も少なくできるようになってきている。ただ、地球温暖化による海面上昇や海水温上昇が、台風の大規模化や被害の増大を招きかねない。地球温暖化の防止を含め、これに対する早急な対応や対策が必要である。

教育をめぐる情勢も、「ゆとり教育」の見直しが言われ、新政権のマニフェストには、学習指導要領の「法的拘束力」ではなく「大綱化」や、公立高校の授業料の無償化が明記されるなど、変化してきている。このような変化に対応していくためにも、教育や教職に関する的確な情報を基に、教職課程の状況や課題について学び合っていくことが重要である。さらに、主体的に情報発信を行い、より良い教育をめざして提言などをしていく必要がある。

教職課程センターでは、昨年度から「教職センターだより」を発行し、教員採用試験の情報や、採用試験合格者の声などを載せてきた。教育や教職に関する的確な情報を伝え、学び合い、良い教育をめざして情報発信をするためには、本学教職課程の状況とともに、教職員からの情報、学生の声や意見、要望なども取り入れ、教職員と学生がともに情報を共有していくことが大切である。

本学では、近年、学生の努力や教職対策の自主ゼミである教友ゼミなどの効果により、教員採用試験の合格者が増加しており、卒業生とのネットワークも強まってきている。今後は、在学生の取り組みや声とともに、教職の現職に就いている卒業生の声も含めて、「教職センターだより」をさらに充実、発展させていきたい。

皆様からの忌憚のないご意見や積極的な情報提供などをお願いしたい。



教友ゼミで模擬授業を行う寺田有輝君（愛知県 特支（中社）合格）

教職課程センターでの4年間

平野 征人

日本福祉大学の教職課程センターは立ち上げられてから今年で7年目に入るのでないだろうか。私は立ち上げから3年目に、前任者のご退職に伴い、二人目の教職課程センター教員として採用されたと聞いた。4年前の教職課程センター室は、現在の位置とは廊下を挟んだ反対側にあり、今は事務関係の部屋となっている。部屋が移動し教員の部屋と面談室に分かれて施設面の充実があっただけでなく、この4年間にセンター教員の数も増え、組織面でも教育活動面でも大きくその内容が発展した。センターの歴史が浅いゆえに変化をあげればキリがないが、その中でも特に印象に残っていることを述べてみたい。

特に大きな変化は、現役生とOB両方の教員採用試験合格者が飛躍的に増えたことである。現役生の合格者も倍以上になったが、何より大きいのは現役時代に合格できなくても、初志を貫き、講師を勤めたり、あるいは通信教育で小学校教員の免許を取得して、翌年や翌々年に合格するOBが増加し、かつ合格情報がセンターに集約される体制が整備されたことである。合格者を全国に、そして特支のみでなく小・中社・福祉などの分野でも輩出するようになった。それがまた後輩の励みになった。2年生や3年生の教職課程学生の集いを設け、先輩を呼んで体験談を聞く催しもこうした状況で可能になったことであり、その歴史はまだ新しい。4年生が教採直前に集い、また1次合格者が2次対策のために先輩のアドバイスを受けながら勉強会を行うという企画も、今年で2年目にすぎない。

これらの企画は、その殆どが学生の要望から生まれたものである。当初は学生の自発的な活動として始められたものがセンターの企画となり、内容の充実が図られる形で定着していった。学生の意見から学び、ともに知恵を出し合いながら活動を充実させていくのは、私にとって何より楽しいことであった。これからも先輩から後輩へ知恵が受け継がれ、いわば教職課程学生の文化とでも名づけられるものが育つことを願ってやまない。



今年度教員採用試験の最終結果

受験地	教科	合格者	
		4年生	卒業生
愛知県	特支（中社）	1名	1名
愛知県	特支（小学校）		1名
愛知県	中社	1名	
愛知県	福祉		1名
愛知県	小学校		1名
名古屋市	特支（中社）	3名	2名
静岡県	特支（中社）	2名	2名
静岡県	特支（小学校）		1名
三重県	福祉		2名
京都府	特支（中社）	1名	1名
横浜市	特支（中社）	1名	
香川県	特支（中社）		1名
高知県	特支（小学校）		1名

分析・傾向

昨年度は、現役・卒業生の合格者が25名を超える好結果を残したが、本年度は、現役生9名、卒業生14名（補欠1を含む）が合格している。不況下、受験競争が激化した厳しい状況のなかで、合格者数は減少しているが、合計23名の合格者数は、学生・卒業生の頑張りを示す数字である。現役生の頑張りもさることながら、卒業生14名の合格は、教職を目指す者にとって大きな励ましとなる。特に、18卒・19卒生の3名が、難関の「福祉」で合格したことは、「失敗に挫けず、夢を追い続ける」ことの大切さを物語っている。

採用試験は、競争の激化をうけて、一次試験で不合格となる者が多かった。課程センターの先生方から「優秀」とされる学生たちも涙を飲んだ。多くは受験対策の遅れによる準備不足、面接時のアピール力に問題があったと考えられる。

採用試験の結果報告を見ると、合格者の大半が、教友ゼミ・フィールドワークに参加し、講義出席率の高い学生であった。このことは、教職への高いモチベーションを保ち、自発的に地道な努力と周到な準備をできる学生が合格への近道にいることを示唆している。

また、「二次の筆記試験は自信がなかった」「面接で難しい質問をされ、ほとんど答えられなかった」という人が合格している。これは、面接試験は、知識、知識量ではなく、答え方や態度などから人物を見極めているものと思われる。その意味からも、後に続く現役生には、社会に目を開き、幅広い知識の獲得とともに、豊かな人間関係力・自己表現力を養う努力が望まれる。

教師になってからの近況

高見澤 恵子

教師になってから半年が経ちました。毎日忙しいながらも充実した日々を過ごしています。私は今、中学校の特別支援学級で6人の生徒の担任をしています。一番苦勞していることは、やはり授業です。1学期は、指導の見通しが立たずに、かなり苦勞しました。2学期になってからは、指導の手順や流れが、だいぶつかめるようになりました。とは言っても、まだまだわからないことばかりで、勉強を重ねている日々です。でも、それが自分の生徒のためだと思うと、自然と頑張ることができます。

これから教師になろうとしている人に伝えたいことは、何でもいいから得意なものを作っておくことです。私は学生時代、教師になることを目指し、必死に勉強してきました。教採に受かってからも、特別支援教育の勉強ばかりしていました。確かに、基礎知識や教養はついたのですが、今思うと、とても視野が狭かったなと思います。授業で勉強を教え、生徒の個性や障害に合う指導をすることだけが教育ではないことを、教師となってから実感しました。特に、特別支援教育を受ける生徒の指導は、発想力がかなり重要になってきます。何か得意なものがあれば、それを生かして授業を構成できると思います。また、それを生徒と共有することで、生徒の能力を伸ばすきっかけになるかもしれません。なので、是非、時間がある学生のうちに、なにか趣味や得意なものを作ってみてください。それが教師になったときに、きっと役に立つと思います。

最後になりましたが、教師の仕事は、本当にやりがいがあるし、楽しいです。そして、自分の生徒は可愛くて仕方がないです。これは教師にならないと味わうことができません。なので、諦めることなく今できることを頑張って、教師になってください。そして、これから、教師として一緒にがんばっていきましょう。

今後の予定

【2年生】

実施時期	行 事	内 容
10月、11月	教職課程学生の面接	☆ 学部ごとに教職課程に係る教員が担当して行います。「教職課程履修上の問題や悩み」「教職キャリア形成に向けて」等が中心テーマとなります。随時掲示を見てください。

【2・3年生】

実施時期	行 事	内 容
12月予定	教友ゼミ フィールドワーク	☆ 滋賀県方面で計画中。

【4年生】

実施時期	行 事	内 容
①11月19日(木) 12:30～ 910教室	第2回教員免許状一括申請 オリエンテーション	☆ 教育委員会に提出する書類「免許状授与願」への記入を行ってもらいます。 ☆ 出席できない方は、事前に教職課程窓口に申し出てください。
②11月20日(金) 12:30～ 910教室		
※ ①②のいずれか都合のよいほうに出席してください。		
③11月21日(土)3・4限	教育実習事後指導(中高)	☆ 実習体験報告とまとめ
④12月12日(土)3・4限	教育実習事後指導(特支)	

☆ 教員採用試験合格者から後輩へのメッセージ ☆

社会福祉学部社会福祉学科4年 丸山温之

皆さんこんにちは。社会福祉学部4年の丸山温之です。この度、中学校社会科の教員採用試験に合格することができました。正直なところ合格出来るとは思っていなかったのですが、今回の結果に対して、喜びとともに驚きも大きいです。

私が本格的に教師に向けての勉強を始めたのは、今年の2月ぐらいからでした。周りの友人が試験に向けて取り組み始めるのに比べて、とても遅い時期から始めているだろうと思います。そのため、試験までに自分が納得できるまで勉強したかと聞かれたら、自信を持ってうなずくことはできません。でも、私なりのペースで学習を進めることはできたと思います。試験が近いからとはいっても、毎日勉強に追われる生活は嫌だし、かといって勉強をまったくやらない日はもったいない気がするので、本当に疲れすぎないペースで学習を進めていきました。気持ちの面では、様々な面で余裕をもつように心がけました。「今年落ちちゃったらどうしよう」という気持ちは、まったくありませんでした。今年の試験に落ちたのなら来年また受ければいい。楽観的かもしれませんが、常に気持ちに余裕を持って勉強を進めていきました。この考え方が自分にとって支えになったし、ある意味で強みだったと思います。それから、6月の教育実習も大きなプラスだったと思います。実習中は、忙しい毎日を送っていましたが、生徒とふれあう中で、改めて教師という職業のやりがいを感じられたし、より一層教師になりたいという気持ちは強くなりました。

教員採用試験では、筆記以上に、受験者の性格や心構えを重視しています。毎日学習を進めることも非常に大切なことですが、試験当日まで自分が教師を目指すようになったきっかけを考えたり、教育実習を振り返ったりして、教師になりたいという気持ちを強く持ち続けることが何よりも大事なのではないかと思います。このメッセージが来年受験する皆さんの力に添えられたら幸いです。ありがとうございました。



中学校で教育実習中の丸山温之君



社会科の授業中

